

フロントライン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は豊富な技術の知識を持って、営業に近い立場から新製品開発に携わる技術・開発室のスタッフをご紹介します。

技術・開発室
企画開発グループ

おはた けんじ
大島 健二

2009年入社。研究所の粘着材料研究室や素材設計研究室を経て、2018年に事業統括本部の技術・開発室へ配属。主にシール・ラベル用粘着製品の開発・拡販に従事。

Q 現在の仕事について教えてください。

営業スタッフと共にお客様の元へ足を運んでニーズを伺い、それを研究員と共有して新製品開発や既存品の改良につなげる、いわば“橋渡し”の役割を担っています。現在は改ざん防止用ラベル素材や抗菌・抗ウイルス性を付与したラミネートフィルムを担当していますが、お客様の反応がすぐに分かるのは研究所にいた頃との大きな違いですね。



改ざん防止用ラベル素材

剥がそうとするとその痕跡が残るようにつくられたラベル素材。貼られていた対象物に「開封済」などの文字が浮き出るタイプや、表面基材が破れてしまうタイプなどがあります。

Q 研究所での経験は今の仕事にどのように活かされていますか。

製品の開発・改良に当たっては、研究員とのスピーディーな連携が欠かせません。私は当室に配属になる前の9年間は研究所にいましたので、幸い誰がどんな研究をしているのかよく分かっており、案件に合わせてその分野に詳しい研究員にすぐに相談することができます。また、研究所の設備や試験方法などに関する知見がお客様への最適な提案につながることもあり、当時の経験が非常に役立っていると思います。

Q 今後の抱負を聞かせてください。

研究所では担当製品に関する高い専門性が求められましたが、今は知識の幅も求められます。今後は製品知識をさらに増やしてお客様のさまざまなご要望にお応えしていきたいと思います。また、当室の役割の一つである海外材料の探索にも注力し、それらを活用することで今まで以上にグローバル市場で展開できる新製品の開発に挑戦したいと考えています。





リンテック流 名言・格言集



皆様の暮らしを豊かにする当社の製品や技術などをイメージした“リンテック流”のオリジナル名言・格言と、目を引く偉人風のシルエットを組み合わせて表現した新聞広告シリーズです。

【掲載紙】 日本経済新聞、讀賣新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報

リンテック流
名言・格言集

新たな価値は
予想外の
出会いから
生まれる

小豆の殻を資源として有効活用
独特な模様と風合いが特徴の混抄紙

リンテック株式会社

7月 July 掲載広告

当社では独自の特殊紙製造技術を生かして、通常は廃棄処分される小豆の殻を資源として有効活用。木材パルプに混ぜ合わせて抄くことで独特な模様と風合いが特徴の意匠性に優れた混抄紙を開発し、手提げ袋や封筒、包装紙などの用途で幅広くご利用いただいています。

リンテック流
名言・格言集

視点を少し
変えるだけでも
見える世界は
一変する

見る角度によって視界が変わる
窓ガラス用の特殊高性能フィルム

リンテック株式会社

8月 August 掲載広告

窓ガラスに貼ると、見る角度によって透明に見えたり、すりガラス状に見えたりする独自設計の視界制御フィルム。ガラスが持つ透明性や採光性を損なうことなく、見せたくない部分の視界をカットできるため、窓からの景観を保ちながらプライバシーの保護にも貢献します。

リンテック流
名言・格言集

自由な発想を
形にする力が
人々の心を
動かしてゆく

独自のデザインで空間を演出する
屋内装飾用デジタルプリント壁紙

リンテック株式会社

9月 September 掲載広告

オリジナルの装飾模様をはじめ、イラストや写真などを大判インクジェットプリンタで出力できる当社の屋内装飾用デジタルプリント壁紙。防火認定を取得するなど安全性にも配慮し、商業施設からオフィス、ホテル、一般住宅まで、独自デザインの空間演出を実現します。

詳しくは
こちらのサイトで
御覧いただけます

DREAM
FACTORY

www.lintec.co.jp/dream/ad

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	172,838	170,098
固定資産	117,811	110,164
① 資産合計	290,650	280,262
流動負債	66,232	63,506
固定負債	19,721	19,406
② 負債合計	85,954	82,912
③ 純資産合計	204,696	197,350
負債純資産合計	290,650	280,262

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
④ 売上高	62,377	56,023
売上総利益	17,055	13,911
販売費及び 一般管理費	10,649	10,366
⑤ 営業利益	6,405	3,545
経常利益	6,935	3,478
税金等調整前 四半期純利益	7,208	3,478
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,455	2,421
四半期包括利益	10,122	555

□ポイント!

① 資産合計

現金及び預金が減少しましたが、棚卸資産、有形固定資産が増加したことなどにより、総資産は103億87百万円増加しました。

② 負債合計

未払法人税等が減少しましたが、支払手形及び買掛金が増加したことなどにより、負債は30億41百万円増加しました。

③ 純資産合計

利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、純資産は73億45百万円増加しました。

④ 売上高

収益認識会計基準の適用により、オプティカル材事業部門が大幅に減少しましたが、アドバンスマテリアルズ事業部門が好調に推移したほか、そのほかの事業部門でも需要が回復したことなどにより、売上高は63億54百万円増加しました。

⑤ 営業利益

電子・光学関連の増益に加え、印刷材・産業工材関連が黒字化したことなどにより、営業利益は28億60百万円増加しました。

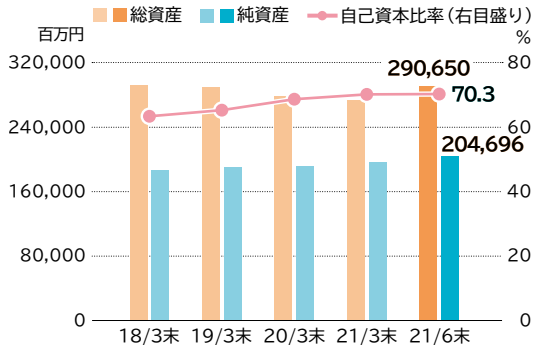
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益

営業利益の増加に加え、為替差益や米国子会社買収に伴う負ののれん発生益の計上などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億33百万円増加しました。

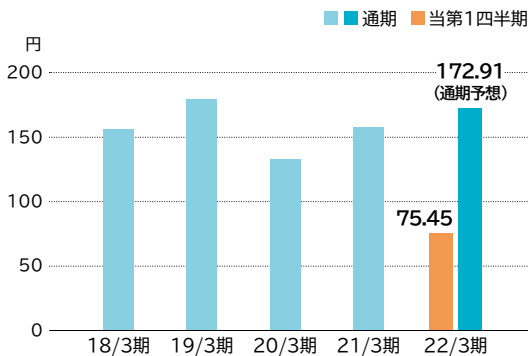
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	7,905	6,335
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,325	△2,404
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,587	△4,466
現金及び現金同等物の 四半期末残高	55,257	50,945

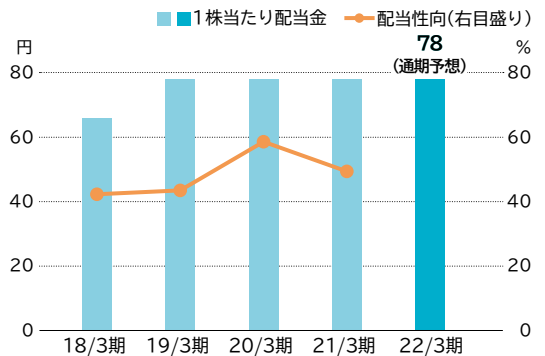
総資産・純資産・自己資本比率



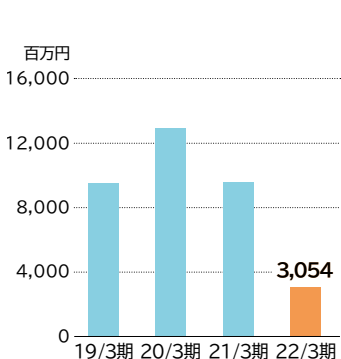
1株当たり四半期(当期)純利益



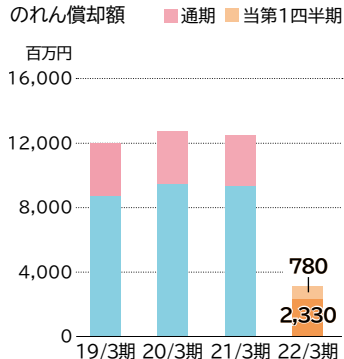
1株当たり配当金・配当性向



設備投資額



減価償却費 のれん償却額



研究開発費

